関西福祉大学
スクラップ・切り抜き分　附属図書館
本学関連記事
2014年7月5日(土)

街中で誰でも気軽に談論
赤穂に「哲学カフェ」
花岳寺通りで月1回開設

「運命」や「人生」など普段は話題にしないような根源的テーマを気軽に話し合う月1回の「哲学カフェ@赤穂」が花岳寺通商店街の空き店舗に開設。初回のオープン日には小学生の親子連れや高齢者大学の生徒たちなど年齢も立場もさまざまな約20人が集まり、「幸福って何だろう?」をテーマに互いの意見や考えを述べた。

哲学カフェは1992年にフランス人哲学者のマルク・ソーテ(1947−98)がパリで始めたのが起源とされる。日本にも15年ほど前に導入され、国内各地に拡大。赤穂での取り組みは、おもいやりに満ちた福祉社会を目指す「ユニバーサル社会づくり推進事業」として市が関西福祉大学附属地域センターの協力を得て6月から始めた。

▽挙手してから発言▽他者の発言を否定しない−といったルールさえ守れば誰でも参加でき、途中の入店や退席も自由。店内は会議机を「ロ」の字型に並べただけで簡素だが、学生たちが飲み物と菓子でもてなす。学生は話し合いにも参加し、初回に高齢者大学の同僚と参加した長池町の松井芳子さん(79)は「歳の離れた人たちの意見が聴けて新鮮」と談論を楽しんだ。

他の参加者からは「最初は恥ずかしさがあったが、思っていることを話したら気持ちがすっきりした」「当たり前と思っていたことが、そうではないことに気付かされた」といった感想があった。

「年齢や立場などが異なる者同士の話し合いによって、ものの見方や考えが深まり、新たな視点が生まれる」と哲学カフェのメリットを話すのは進行役を務めた同大学社会福祉学部の中村剛准教授(50)。「いずれは地域社会の課題を発掘して話し合えるような場にもしていきたい」と可能性の広がりに期待している。

「哲学カフェ@赤穂」は加里屋まちづくり会館の西斜め向かいにある。参加無料。次回は「大人と子どもの違いは何だろう?」「なぜ、勉強をしなければならないのだろう?」をテーマに7月12日(土)。8月以降は毎月第3土曜日に開設する。時間はいずれも午後2時半〜4時。問い合わせは同センター☎46・2508。**(写真は花岳寺通商店街に月1回開設する「哲学カフェ@赤穂」)**

赤穂民報
2014.7.5

複写等はご遠慮ください。